

令和4年度 学校経営方針

1 学校教育目標

- 積極的に真理の追求をする生徒
- 厳しく正しい生活をする生徒
- 強い身体と心を鍛える生徒



2 15歳の生徒像

～自己肯定感をもった「社会と向き合える生徒」～

【生徒像育成のための視点】

- ・主体的に勉強する
- ・人との関わりを大切にする
- ・自主的に運動に取り組む
- ・社会の変化に向き合える
- ・将来の（人生の）目標をもつ

☆キーワード；「達成」と「充実」 ～やり遂げ、それに満足する～

3 学校経営方針

「15歳の生徒像」を育む教育活動を展開するために、次の3点を基本方針とする。

（1）学校力を高める

- ・キーワード；「教師力・組織力の向上」「動き出す学校」

（2）生徒の夢を育む

- ・キーワード；「達成」「充実（満足）」

（3）地域とともにある学校である

- ・キーワード；「見える化から見せる増」「資源の活用」

4 目指す学校像・教師像

（1）学校像

- ・組織として進むべきベクトルを共有しさらに「学び続ける学校」

（2）教師像

- ・豊かな人間性をもった「学び続ける教師」

5 今年度の重点

（1）個別最適化された学びの達成・充実→主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・ICTの応用

（2）豊かな心と健やかな体の育成→道徳、保健体育、部活動

（3）信頼される学校づくり→「見せる増」

「見える」から
「見せる」へ！

6 経営の重点と具体的方策

(1) 教育課程

「資質・能力」の育成に向けた教育課程の編成～「深い学び」の実現

- ①教科等横断的な視点・学校の新しい生活様式を踏まえた教育課程の編成。
 - ・新学習指導要領の全面実施と授業時数の完全確保。
 - ・対応力のある教育課程の編成。(生徒の学びを止めない！)
- ②教育課程に位置付けた地域の**人的・物的資源の活用**。
- ③**ICTの継続的な応用**等、指導方法の工夫改善による個別最適化された授業展開。
 - ・ゴール(＝単位時間・単元等)を**次につなげるICT等の応用方法**の工夫。
- ④総合的な学習の時間との関連を図ったキャリア教育の充実。
- ⑤特別支援教育における教科指導に自立活動を組み入れた授業展開。
- ⑥学力向上につながる補充的な学習の時間(放課後、長期休業中)の設定。

「深い学び」として知識を活用し発揮させること

積極的に活用(校外持ちだしも含む)

(2) 組織運営

組織として進むべきベクトルの共有化～「つながり」

- ①「分担」から「協働」へ。(「**広がり**」を大切にする組織！)
 - ・学年・校務部会の枠にとらわれない組織運営。
- ②企画委員会・マンデーミーティングの効果的な活用。
 - ・「報告・連絡・相談」と「判断」。
 - ・マンデーミーティングの検討内容を全職員に公開。
- ③エビデンス(根拠)に基づく機動的な組織運営。
- ④同僚性を高める環境づくり。(教職員間の交流、教師力の向上)
 - ・**C4th** 掲示板の**効果的活用**、「研修だより」の発行、校外研修内容の還元。
- ⑤作成資料の削減及び保管方法の効率化。
 - ・わかりやすい資料の提示と組織フォルダへの確実な保管。

互いに知恵を出し、支え合える組織
・「広がり」→共通認識のもと力をあわせて働くこと

業務削減と関連！

(3) 学年・学級経営

認め合う環境づくりを核とした「自己肯定感」の向上～「達成する」「充実する」

- ①5S活動(4S+1S)の強化。(整理・整頓・清掃・清潔+躰)
 - ・躰～学校生活ルールへの遵守。基本的な生活習慣の確実な定着。
- ②**達成できる活動**の厳選・工夫。→生徒の主体的活動の推進。
 - ・満足感を共通認識で高め合う。
- ③「**なかまの特性**」を理解し合う学級づくり。
 - ・特性を付度しあう温かい人間関係づくり。
 - ・生徒・保護者と共にする学級経営。

活動のねらいを明確に！
・充実感をもたせる

「なかまの特性」を知り補い合う！
・「生徒と生徒」「生徒と教師」「保護者と教師」も同じ

(4) 研修活動

日常実践に直結する校内研修の充実～「学びの応用」のシンクロ化(同時に)

- ①研修の成果を校内研修に環流させる体制づくり。
 - ・資料提供と「研修だより」の発行。
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。
 - ・「課題」「まとめ」「振り返り」の確実な設定。
 - ・単元のゴール地点(学びの姿)をイメージした指導計画。→「どのような力がつくのか！」
 - ・ICT機器の**継続的な応用**。(これからの内容とICTとの**シンクロ**(同時に進める))
 - ・指導と評価の一体化のための学習評価。
- ③家庭学習に「eライブラリ」の問題の活用工夫。
- ④道徳の授業における「学習テーマ」と連動する「テーマ発問」の工夫。

生徒の学びの姿を鏡として
・「どのような力がついたか」を重視
・「学びに向かう力」の育成をベースと

(5) 教育環境の整備

教室環境のユニバーサルデザイン化～「すっきり」「わかりやすく」

- ①教師が範となる言動。
- ②教室環境の整理・整頓・清掃・清潔（4S）＋「SDGs」の徹底、及び特別教室の整備。
 - ・エネルギーや資源の有効活用。
- ③学校花壇の整備、ボランティア活動（地域清掃）等の推進
- ④掲示広報・校内放送の工夫、図書室の利用の促進。
 - ・廊下の掲示物の精選。
- ⑤定期の安全点検による危険箇所・破損箇所の把握と補修。

持続可能な開発目標

・すべての人に行動が求められている。

図書システムの活用

(6) 家庭・地域との連携

信頼を育む地域とともにある学校づくり～「見える化」から「見せる増」

- ①「学校教育力向上エリア会議」（第3エリア）の機能化。（苫小牧 A-9）
- ②学校関係者会議の年3回の開催。（学校評議員＋PTA会長・副会長）
- ③地域行事への参加、及び地域の人的・物的資源の活用。
- ④「学校の新しい生活様式」を踏まえた公開の継続。
 - ・学校HP、メール配信システム、公開カレンダーの積極的な運用。
 - ・学校行事や参観日の公開工夫。
 - ・オンラインの活用に向けた体制の構築。
- ⑤家庭との連携のパイプづくり。
 - ・二者懇談・三者懇談等を生かした個別対応の強化。
 - ・「保護者アンケート」の年間2回の実施。

いましばらく我慢

・「学校のことを発信する工夫」

迅速な行動と丁寧な対応

(7) 危機管理

未然防止・初期対応を軸とした危機管理体制の確立～「安全」「安心」の提供

- ①「自助」「共助」を柱とした防災教育の強化。
 - ・「胆振防災教育デー」の効果的な活用。
- ②最悪の事態を想定した初期対応の充実。
 - ※職員全体での共通認識のもと対応。
- ③「いじめ根絶！」。→教師の本気＋生徒の自主的活動
 - ・いじめ根絶集会の開催。「笑顔を作るスマイルプロジェクト！」
- ④食物アレルギーへの対応。
 - ・アナフィラキシーに関わる初期対応の徹底。
 - ・アレルギー対策委員会の単体組織化。

迅速な対応がその後につながる！

・生徒に関すること
・管理上の事故等（自然災害を含む）

緊急時の対応のマニュアル化

(8) 職場環境の整備

教員の時間外勤務の削減等に向けた実効性ある取組～「立ち止まって考える」

- ①「これからの学校」という押さえ。
 - ・学校行事の更なる見直し・柔軟な対応。
 - ・年度末反省の在り方の改善。（会議の廃止）
 - ・「働き方改革」も「SDGs」である。
- ②定時退勤日・学校閉庁日の設定。
 - ・確実な実践。（同じ日に部活動休養日の実施し放課後時間の確保）
- ③業務内容の効率化。
 - ・C4th等の効果的活用。（作成資料の保管・管理の強化等。）
 - ・マンデーミーティングの効果的な運用。→企画委員会の検討内容削減へ。
- ④学習指導員・スクールサポートスタッフ等の積極的な活用。

コロナ以降の学校現場

・続けることとやめることは何か。
・誰一人取り残さない。（強い理念）

力を生かそう！
・新たな学びと効果がある

7 指導の重点と具体的方策

(1) 学習指導

単元を見通した授業展開とICTの積極的な活用～「個別最適化」

【授業】；個別最適化された学びの実現

- ①数値目標を明記した「学校改善プラン」に基づく、質の高い検証サイクルの確立。
 - ・生徒アンケート及び学習アンケートの年間2回の実施。
- ②「課題」「まとめ」「振り返り」の確実な設定。
 - ・板書、ICTの効果的な活用。
- ③「**どのような力がついたか**」を重視した深い学びの実現。
- ④ICTを**効果的に応用できる学びの計画**。(苫小牧 A-9)
 - ・タブレット等、ICTの**効果的な応用**。

応用を通しての短いスパンでの検証！
・新たな目標のための効果的なツールとしての応用

【補足的な学習と家庭学習】

- ⑤補足的な学習の**効果を授業や定期テストにつなげる**。
 - ・参加者の意識改革と習慣化。(「eライブラリ」の問題の活用を含む)
- ⑥主体的に取り組む家庭学習の充実。
 - ・家庭学習から**達成感・充実感**を持てる**学習機会の工夫**。
 - ・「eライブラリ」の活用の推進。(タブレット持ち帰りの早急な実現)

(2) 生徒指導

自己指導能力を育成する積極的な生徒指導の推進～「複数で臨む」

- ①学習(教科)指導における生徒指導(自立活動)の充実。
- ②生徒理解の深化。
 - ・教育相談、各種調査、日常的な触れ合い等。
 - ・情報の共有化と「**複数で臨む**」生徒指導。
- ③自己管理能力の育成。
- ④いじめ・不登校対策における未然防止と初期対応の強化。
 - ・マンデーミーティングの機能強化。
 - ・「笑顔を作るスマイルプロジェクト」「いじめ問題子どもサミット」の効果的な活用。
- ⑤保護者・関係機関等との連携と協力体制の構築。(苫小牧 A-9)

生徒指導の基盤！
・生徒の特性を共通理解する

自己判断・管理できる場の意図的な設定
・制服変更に伴い校則を改めて考えさせる
・健康面(感染症・アレルギー) など

(3) 道徳教育

豊かな心の涵養を目指す道徳教育の充実～道徳の時間における「振り返り」の工夫

- ①他領域と関連を図った全体計画に基づいた「特別の教科 道徳」の時間の推進。
 - ・「学習テーマ」と連動する「**振り返り**」の工夫。
- ②道徳推進教師を中核とした全教員が道徳の指導に当たる体制強化。
 - ・道徳の研究(公開)授業を実施。
- ③地域の人的・物的資源の積極的活用。
 - ・こころの授業、マナー教室等。
- ④学校行事の効果的な活用。
 - ・生徒の自主的な活動の推進。(いじめ問題など)

学んだことを「振り返る」時間配分の工夫
・①自分自身②他の生徒③今後の生活④将来の夢等の「振り返り」の設定

(4) 特別活動

自己実現を図ろうとする態度の育成（集団活動を通して）～「ねらい」の明確化

- ・「心を開く」「心に近づく」取組の強化（挨拶）
- ・「良好な人間関係」「社会性」の育成→「自己実現を図ろうとする態度」の育成
- ①生徒会活動・学校行事における「ねらい」を明確にした指導の重視。
- ②生徒会と学級のつながりの強化。
- ③「達成感」「充実感」を実感させる指導の工夫。
 - ・「挨拶」「ありがとう」が飛び交う環境づくり。
 - ・生徒の自主的な活動（生徒会活動・学級活動・部活動）の推進。
 - ・「認め合い」「やりがい」を生む意図的な活動の推進。

最後までやり遂げる。やり遂げたことを満足する。

(5) 総合的な学習の時間

課題解決できる「生きる力」の育成～「キャリア・パスポート」の有効活用

- ①教科等横断的な視点及び職場体験活動の重視。
- ②自主的な課題設定と「解決への見通しをもって取り組む過程」を見取る評価の工夫と充実。

(6) 進路指導

自己実現につながる生き方指導と個に応じた進路指導の充実～「個への支援」の強化

- ①個に寄り添った生き方指導の充実。～「良さの発見」
- ②社会的・職業的自立を育む資質・能力の育成。
 - ・地域の人的・物的資源の活用。
- ③進路選択に向けたきめ細やかな情報の収集と提供。
- ④進路業務の適正化、効率化、迅速化、及び正確かつ万全な業務の遂行。

(7) 健康安全指導

生命の尊重と体力の向上～「危険回避能力」の向上

- ①運動に親しむ機会の設定と体力向上を図る取組。（主に、保健体育・体育大会・部活動）
 - ・新体力テストの調査結果等の効果的な活用。
 - ・保健体育科の授業改善、及び体育大会の有効活用。
- ②こころ（命）の授業の効果的な活用、心の健康、性、薬物等に関する指導の充実。
- ③食物アレルギーへの対応等、食に関する指導の充実。
 - ・アレルギー対応委員会の効果的運用。
 - ・AED研修会の開催。
- ④危機管理意識の向上。
- ⑤校内及び登下校時の安全体制の確立。

全教職員でアレルギー対応の研修に臨む。

感染症予防に関する特化した取組のみならずすべての教育活動での危機意識の共有

(8) 特別支援教育

「個別最適化」され「創造性」を育む特別支援教育の充実～「いかに効果的か」

- ①「指導の形態」の選定。
 - ・通常学級の教科担任による特別支援学級での授業の実践。
- ②教科指導に自立活動を組み入れた授業の推進。
- ③特別支援コーディネーターを中心とした校内支援委員会の機能強化。
 - ・「特別支援教育支援員」及び「特別支援相談員」の有効活用。
 - ・「心の教室相談員」との必要な連携。
- ④個に応じた教育課程の編成。個別の指導計画、支援計画の作成と活用。
- ⑤小学校との交流、及び関係・専門機関との連携強化。（苫小牧A-9）

指導内容を、どの指導の形態で指導することが「いかに効果的か！」を考える